

KLIS TODAY

No.
17

筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば春日 1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162
URL <http://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

新入生歓迎企画を振り返って

岩井 直也



今年も新入生歓迎の企画がたくさんありました。春日地区新入生歓迎委員会の企画としては、宿舎の入居手伝い、お散歩、レクリエーション、スタンプラリー、バーベキューがありました。クラス代表者会議としては、大学側が企画するバス旅行とオリエンテーションへの協力がありました。それと新入生の生活の手引きとなる『かすがらいいん』の発行です。

1年前の自分たちが、筑波大学そして春日エリアの上級生にあたたかく迎えられた感動を後輩たちにも味わってほしいと思って、まだ自分たちが1年生のころから、次の1年生のため準備を重ねてきました。

振り返ってみると新入生歓迎の企画から実行までには多くの苦労がありました。それでも企画の最中や終わった後で新入生の「楽しかった」という言葉を聞いたとき、それまでの苦労のことなど忘れて本当に嬉しく思いました。「成功してよかった」。新歓委員とクラス代表者はみんなそんな思いでした。

この考えにたどり着くまでには多くの人の協力がありました。新入生歓迎委員会のメンバー、クラス代表者だけでなく当日のスタッフとして協力してくれた人たちや大学職員の皆さん、先生方。この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(いらい・なおや 知識情報・図書館学類2年次)





レクリエーション風景（新歓委企画）



1年生オリエンテーションで語る鈴木美識さん
（左端は北藤さん、右端は岩井さん）



「あれは何だ？」（バス旅行にて）



「つくばはどこ？」（バス旅行にて）

新企画 スタンプラリー

岩井 直也

こんにちは。2012年度の新歓企画、スタンプラリーを担当しました岩井です。スタンプラリーは、春日のなかの主要な施設を先輩と一緒にまわって覚えようという企画です。春日エリアは、独立した大学だったということもあって多くの施設が備わっていて、さらに普段は使わない施設もあります。新入生はどこに行ったら何をすればよいかわからないこともあるので、この企画を立て、その状況の解消をめざしました。その際、一年以上春日にいた先輩の生の声が新入生に届くように努めました。新企画ということもあって、許可を求める先や必要な人員や宣伝方法などわからないことが多く大変でした。それでも、新しい企画を生み出すのが大変であることを学べたのは、自分にとって収穫でした。

今年の反省も活かしてもらってもっとよい企画になったらよいと考えていますので、来年入学される方には参加を、在校生には協力をおねがいします。

（いわい・なおや 知識情報・図書館学類2年次）

新入生の新生活を応援しています

鈴木 美識

知識情報・図書館学類では、今年の4月6日に女子が春日宿舎に、7日に男子が追越宿舎に、合わせて60名あまりの新入生が宿舎へ入居しました。私たちの主な活動は、受付をすませた新入生に、住む棟がどこにあるのかを示した地図で案内をしたり、入居時に貸し出される布団やその他の荷物の運搬を手伝ったりすることです。春日地区新歓としては情報メディア創成学類の新入生も対象にしていたので、平砂を加えた三つの地区で、目印として青い新歓ジャンパーを着て活動しました。宿舎に入居する新入生が初めて接する先輩になるということに、少しの緊張と喜びを覚えながら活動ができ、とても楽しかったです。ただ、スタッフの人数配分や全代会から借り受けたテントの有効活用など、反省・改善点もあるので、引き継ぎをしっかりと行い、来年さらに気持ちよく新生活を始められるよう協力したいと思っています。



私も1年次は上級生に手伝っていただき、宿舎に入居しました。苦労も多いですが、友人らとの共同生活は、とても楽しく貴重なものであったと感じています。ぜひ、宿舎での生活を有意義なものにしてください。
(すずき・みさと 知識情報・図書館学類2年次)

「学内散策企画」を振り返って

北藤 李津子



「学内散策企画」は、「お散歩」とも言われています。内容は、私たちの学類がある春日エリアから天王台地区にある「石の広場」まで、ペDESTリアンデッキをその名の通り「お散歩」というものです。この企画の目的は二つあります。1年生に天王台地区までの道のりを覚えてもらうこと。そして、1年生と2年生以上のスタッフ両方にとって楽しい時間を過ごしてもらうことです。

企画当日である4月8日(日)は晴天に恵まれ、引率の2年生以上の学生とともに90人ほどの新入生が実際にお散歩をしました。想定を大きく超える人数に驚きましたが、当日手伝ってくれた2・3年生のみなさんのおかげで無事に企画を終えることができました。

企画中にたくさんの人の笑顔が見ることができ、企画終了後にも、参加してくれた新入生と2・3年生のそれぞれから「楽しかった」という声を聞くことができ、とてもよかったです。

(きたふじ・りつこ 知識情報・図書館学類2年次)

春日エリアに総合相談窓口がオープン

春日エリアに総合相談窓口が開設されました。そこで開設にご尽力くださった保健管理センター杉江先生に、この時期の過ごし方についてご寄稿いただきました。また、窓口でカウンセリング業務をされる飯田先生、峯岸先生に、自己紹介と総合相談窓口の紹介をしていただきました。

季節、時期に合わせた上手な過ごし方

杉江 征

みなさん、6月下旬からの試験を控えて調子はいかがでしょう。まずは無事に4月のハイな状態を乗り越えることができましたでしょうか。4月というのは、なんとなく大学全体が活気にあふれていて、知らず知らずのうちに頑張ってしまう、心身共に疲れがたまってしまうものです。そういった疲れがちょうど出てくる頃に、5月の連休がやってきます。上手く休むことができましたでしょうか。この5月の連休があるおかげで、私たちは、クールダウンして、日常性に戻ることができるのかもしれない。



連休が明けると、授業も本格的に始まり、淡々と日々の生活に取り組むことが求められていると思います。5月、6月は地に足をつけて、授業や研究、課外活動やアルバイト、対人関係も、ひとつひとついねいに地道に取り組んでいくことが求められています。この作業には、外見的な華やかさはないかもしれませんが、目の前のひとつひとつのものがもっている意味や良さ、価値などをじっくりと味わう楽しみがあります。何かを見出すにはこちらから積極的にかかわっていかないといけないので、結構労力の要る作業ですが、労力をかければかけるほど味わえる喜びも大きいかもしれません。この時期ちょっと「日常」を積極的に過ごしてみませんか。

なかには、5月の連休のリベンジのために壮大な夏休みの計画を立てている人もいるかもしれません。夏休みを夢見ながら今を過ごすのもよいのですが、夏休みの前には、残念ながらテスト週間が待っています。浮かれずに、今を大切にしてくださいね。

総合相談窓口（春日エリア）の開室時間

月曜日	13:30~16:30
火曜日	9:15~12:15
水曜日	9:15~12:15
木曜日	9:15~12:15
金曜日	13:30~16:30

学生生活にも、季節に合わせた上手な過ごし方があります。卒業までの4年間にもその時期にあわせた上手な過ごし方もあります。学生生活のなかで何か戸惑うことや困ったことなどが出てきたら、気軽に学生相談室を利用してください。この4月からは春日エリアにも総合相談窓口がオープンしました。みなさんの身近なところでお役にたちたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

(すぎえ・まさし 心理学類 准教授/保健管理センター学生相談室)

ゆったりとした時間、スペース

峯岸 由貴

こんにちは。春日相談窓口のカウンセラー、峯岸由貴と申します。春からこちらに来るようになって、静かで落ち着いた、こじんまりとしてあたたかみのあるキャンパスに愛着を感じ始めています。木々を眺めてボーっとしながらのんびり散歩することが好きなので、お昼前後に一人でふらふらキャンパス内を歩いているおばさんを見かけたらそれは私かもしれません（笑）。

体を動かすことが好きな私ですが、一日家にこもって家事に没頭したりゴロゴロすることも至福の喜びです。ふと思い返すと、私が今自分の楽しみとしていることの多くは、学生時代に見つけられたことのように思います。

私たちの多くは、無駄を省いて目標達成に向けて頑張ることには慣れてるように思います。でも、頑張りすぎて疲れたときにペースを落としたり、人に話したり余暇を楽しんで日々の緊張を緩めたり、エネルギー充電する、というようなことには、案外慣れていないものです。学生時代、とくに長期休暇はそうしたことを試行錯誤するよいチャンスかもしれませんね。

皆さんは、どんなとき、どんな場に楽しみや心地よさを感じますか？

悩みまでいかずとも、何となくもやもやしているときなどにも、気軽にお話に来てみてください。

（みねぎし・ゆき 保健管理センター学生相談室）



「話す」ことで気持ちを「放そう」

飯田 亜紀

新緑が目鮮やかな季節となりました。学生生活や新学年に慣れ始めてきた頃合いかと思えます。

私は春日相談窓口のカウンセラー、飯田亜紀と申します。大学入学後のこの時期のことは（大分昔になりますが）今でも覚えております。親元から離れ、独り暮らしを始めましたが、今度は「自己管理」が必要になるのに戸惑いました。解放された喜びとともに、孤独感、不安感を感じる時期が今だと思えます。ただ、幸い、学友や先輩など、横や縦のネットワークに色々と助けていただきました。そのうち、実験やレポート提出、試験、バイト、サークルなどが多忙になり、目の前の課題に対応していくので精一杯になりましたが。長期休暇に入りますと時間の余裕ができて、合宿や旅行、映画や美術館巡りなどする一方、「これから自分はどうやって生きていこう」と今度は先をどうするかという不安が出たりしました。そういうとき、本やメディアからの情報を得たりもしましたが、何より自分の悩みや不安感を誰かに「話す」ことで、それをいったん自分から「放す」＝自分を客観視することができる、これがよかったと思えます。

春日相談窓口も自分の気持ちを「放す」ように使って頂けたら幸いです。

（いいだ・あき 保健管理センター学生相談室）

〈特集〉夏休みにしておきたいこと

夏休みにはいろいろなことに挑戦できるチャンスがたくさんあります。今回は、卒業生2名に「夏休みにしておきたいこと―旅」を寄稿してもらいました。

出会い

村野 亜子

夏休みが近づいてきましたが、この夏の予定は決まっていますでしょうか？ 私は、できればまたどこかに旅に出たいなと思っています。

私は大学4年間で何度か一人旅をしました。

初めて行ったのは、大学2年の夏。青春18切符を使っての四国一人旅でした。四国へ向かうときは不安でいっぱい、事前に書いていった乗り換えメモを何度も確認しながら電車で揺られていました。

そんな不安な気持ちを紛らわすように、旅先では出会った人たちと積極的に話をしました。そうすると、地元の人がガイドブックに載っていないことを教えてくれたり、お店の人がおまけをしてくれたり、はたまた宿泊先のお子さんの進路相談をされたり…。大勢での旅だと友人と話すのに夢中になってしまうので、あんなにもゆっくりと旅先で出会った人たちと話す機会はないと思います。こうして一人旅がとても楽しいと感じるようになりました。

最も印象に残っているのは、大学4年の春に行った小笠原一人旅です。小笠原が舞台のとある小説を読んで「行きたい。行くのは今しかない」と思い、すぐに実行に移しました。小笠原へ行く手段は、約1週間に1本しかない片道25時間半かかる船のみ。漁港までもがサンゴ礁の青い海で、海に飛び込めば足元にイルカがいて、陸から海を見渡せば至るところにクジラが潮を吹いていて、山は初めて見る固有植物であふれていて…。とにかく感動の連続でした。

そして何より、たくさんの素敵な人と出会いました。一緒に海に潜った人、一緒に山を歩いた人、一緒に食事をして、一緒にお酒を飲んだ人…。小笠原は人と人との距離がとても近く、島を離れるときには涙が止まらなくなるほど素敵な場所でした。

一人で旅をしていると、たくさんの人と出会い、たくさんの方の優しさにふれることができます。2ヶ月という長い夏休み。まだ予定の決まっていない方は、旅の計画を立ててみてはいかがでしょうか。

(むらの・あこ 図書館情報メディア研究科博士前期課程1年、知識情報・図書館学類 平成24年3月卒)



電車からの景色 (@愛媛)



出港。盛大な見送りに感動。 (@小笠原)

夏休みこそ、外へ！

北川 翔一



旅行先（和歌山県）にて

つくば民の夏休み、とりわけ春日の住人の夏休みというと、すごくインドアな雰囲気を感じるのは私だけでしょうか。普段以上に夜行性になったり、twitterを頑張ったり、自分の世界に入り込んだり…。「夏休みはコミュカ[※]なんて使わない！」なんて人もいるかも知れませんね。そんな普段の延長線上の夏休みは返上して、せっかくの夏休みだからこそ、勇気を出してちょっとだけコミュカを使ってみませんか？

私のオススメは、普段の大学生活ではなかなかできないこと、とくに一人旅がオススメです。一人で旅に出ると、日常では体験できないアクシデントやトラブルに見舞われます。行きたい場所が見つからない、突然の大雨に降られる、待ってもバスが来ない、お腹がすいて動けない、今夜泊まる場所がない、拳句の果てにココはドコ??

そんなとき、旅先の地元の人に道を教えてもらえたり、同じく旅行している人のご厚意にお世話になったりすることがたびたびあります。自分の力ではどうにもならないとき、困ったときにこそ他の人の優しさが、普段の生活では考えられないほどに感じるすることができます。このときにお世話になった方へ、素直に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるとともに、せっかくの心のふれあいを楽しみましょう。自分のこと、相手のこと、社会のこと…など、「一期一会」の重みを噛みしめながらも、ちょっとずつコミュニケーションを重ねることで、多くの人と知り合えることができました。

現在、私は3.11以降の東北復興に携わる仕事をしています。東北各地を回り、各市町村がスマートエネルギー（創エネ・蓄エネ・省エネ）を導入されるお手伝いをしています。このなかで、一人旅にて東北6県の風土にふれあえた経験が、ビジネスを進める上でも非常に大きく役立っています。

さあ、今日の自分が知らない世界へ足を踏み出してみませんか。

今なら、もれなくコミュカ向上のおまけつきです！



旅先の友人と～三重県伊勢湾



村の酋長さんと～沖縄久高島

※コミュカ（こみゆりよく）

…人に話しかけたり、他者と円滑に人間関係を構築したりするための能力。定義はいろいろとあるみたいですが、けっしてtwitterのtweet数やふぁぼ数が多いことではありません。

（きたがわ・しょういち 二チコン株式会社勤務、知識情報・図書館学類 平成24年3月卒）

宿舎新入生の生の声

私的KLiS TODAY@春日宿舎

山口 遥

私は北海道からつくばにやってきました。入居の手伝いに来てくれていた母が帰った日、最初は寂しいと思いましたが、夜には宿舎の子と仲良くなり、寂しい気持ちもあつという間に消えてしまいました。

春日宿舎の女子棟は改修されたばかりで、その事実を知らなかった私は綺麗な宿舎を見てびっくりしました。宿舎の補食室や浴場などの共用スペースは綺麗に掃除され、住んでいる側は快適です。補食室ではみんなで一緒にご飯を食べてわいわいとおしゃべりし、浴場では大きな浴槽に張られたお湯にゆったりとつかることができます。



会話も弾む、補食室@春日宿舎

宿舎のいいところはすぐに友だちができ、その友だちと助け合えることです。寝坊した友だちを起こしてあげたり、課題を協力しながらやったり、一緒に料理したり。最初は不安しかなかった一人暮らしですが、今ではとても楽しいKLiSライフを送っています。

(やまぐち・はるか 知識情報・図書館学類1年次)

追越宿舎に入居して

伊藤 光紀

追越宿舎に入居しました伊藤光紀です。宿舎の環境と生活について少々書かせていただきます。個室の環境は予想よりも清潔、というのが第一印象です。入居以前に入手した大学説明会での資料などには「宿舎は汚い」という意見が大半でしたが、自分の入居した部屋は清潔でした。入居後にわかりましたが、自分の部屋は改修されていましたが、廊下、補食室などの共用部分についても目立って不潔というわけではなく、不便なことはありません。

宿舎生活はほぼ予想通りでした。自分の手で食事を作る必要があることに慣れ、個人個人の生活リズムが違うことを頭に入れて少々の物音を気にしなければ、基本的に不満は生まれることはありません。追越宿舎に入ると、春日宿舎のような同じ学類の友だちの輪はできませんが、そのかわりに、多様なキャリアをめざすさまざまな考え方の友人がふえる点は魅力的だと思います。

(いとう・こうき 知識情報・図書館学類1年次)